

和歌山県の地震

第 2 8 卷 7 号
令和 2 年 7 月

和歌山県の地震活動

震央分布図	・・・・・・・・ 1
断面図	・・・・・・・・ 2
概況	・・・・・・・・ 2
和歌山県で震度 1 以上を観測した地震及び震度一覧	・・・・・・・・ 3
震度分布図	・・・・・・・・ 3

地震メモ No. 320

南海トラフ地震関連解説情報 (令和 2 年 8 月 7 日)	・・・・・・・・ 6
津波から身を守る	・・・・・・・・ 7

- * この資料に使われている震源要素 (北緯・東経) は、世界測地系に基づいています。
- * この資料の地震の震源要素は暫定値を使用しています。震度データを含めて再調査した後、修正することがあります。
- * 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点 (河原、熊野座)、米国大学間地震学研究連合 (IRIS) の観測点 (台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東) のデータを用いて作成しています。
- * この資料に掲載した地図は、国土地理院の数値地図 25000 (行政界・海岸線) を使用しています。

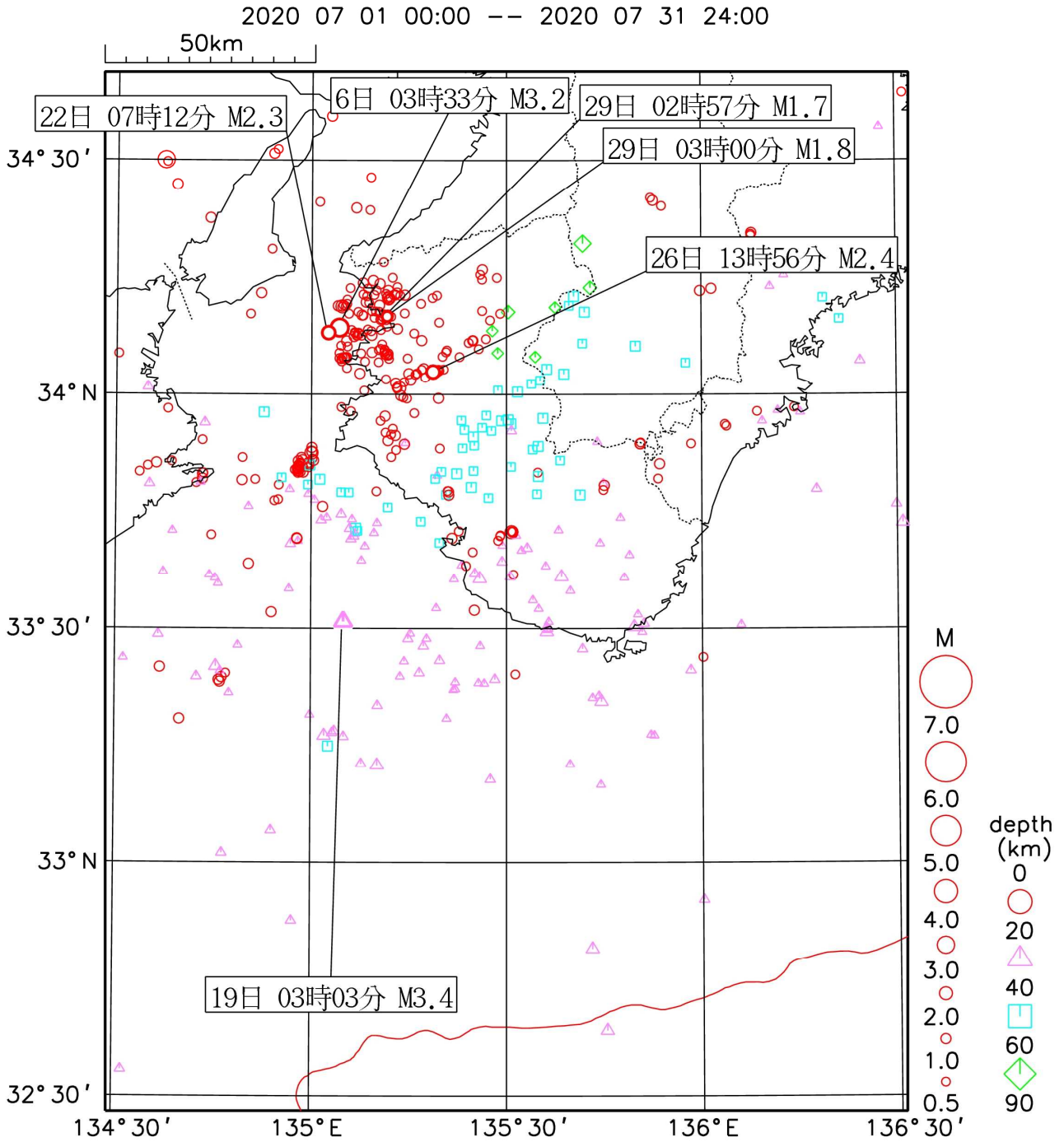
和歌山地方気象台

和歌山県の地震活動

2020年7月

和歌山地方気象台

震央分布図

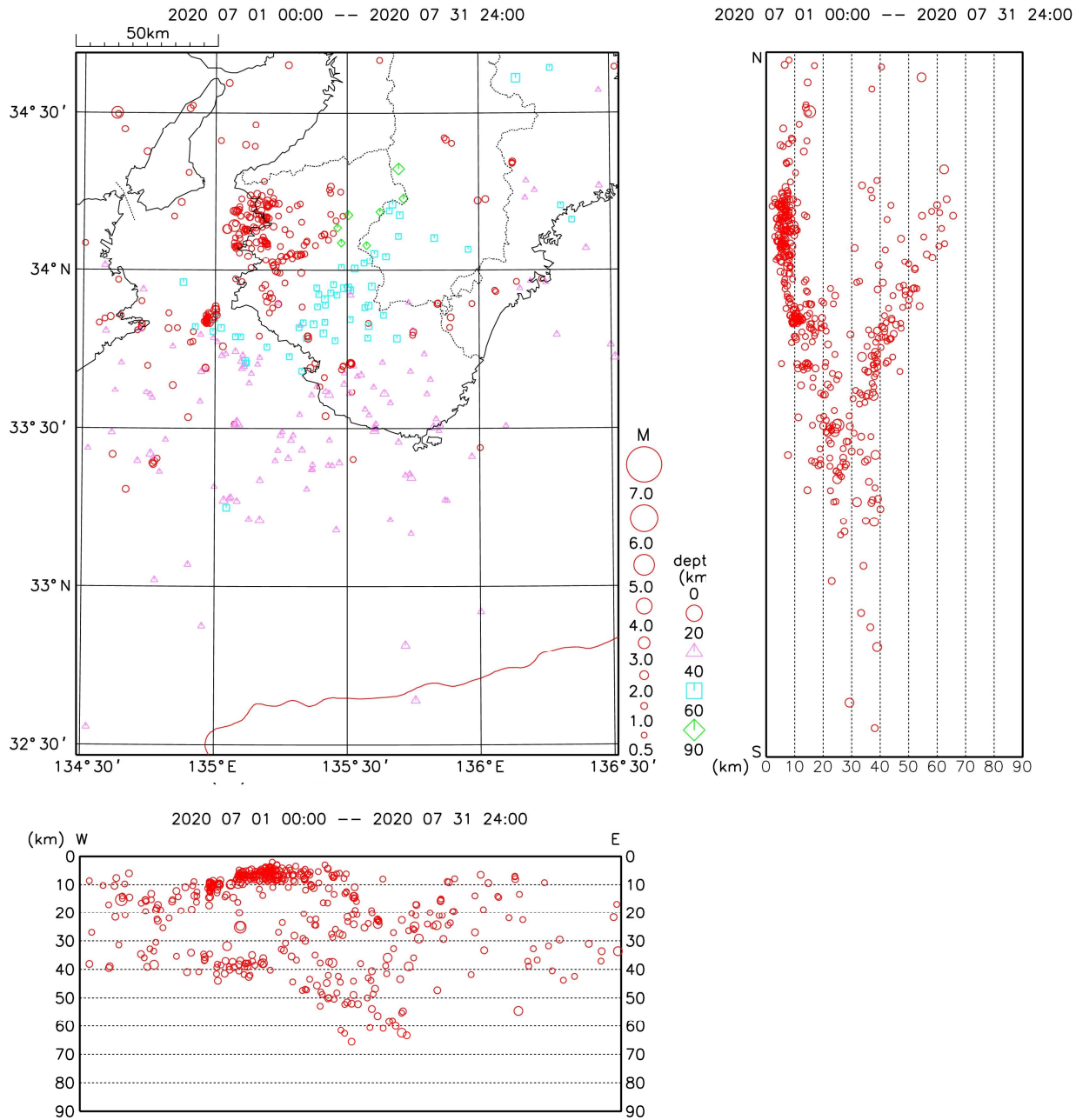


震央分布図は地震が発生した場所を地図上に描画したものです。

シンボルマークの大きさと地震の規模（マグニチュード）を、シンボルマークの形と色で震源の深さを表しています。また、赤線は海溝軸（南海トラフ）の位置です。

図中の吹き出しは、和歌山県内で震度1以上を観測した地震および震央分布図内で最も規模の大きな地震を示しています。

断面図



概況

7月の震央分布図内で震源決定した地震のうち、マグニチュード(M)2.0以上の地震は24回(前月は17回)でした。そのうち最も規模の大きかった地震は、19日03時03分和歌山県南方沖の地震(M3.4、深さ25km)でした。

7月に和歌山県内で震度1以上を観測した地震は、6回(前月1回)でした。

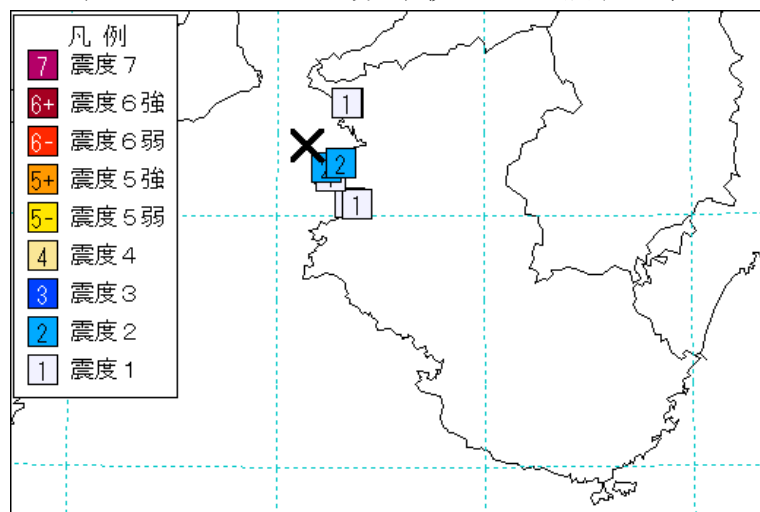
和歌山県で震度 1 以上を観測した地震及び震度一覧

発震時（年月日時分）	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード
各地の震度（和歌山県内のみ掲載）					
2020年07月06日03時33分	紀伊水道	34° 08.5' N	135° 04.2' E	9km	M3.2
和歌山県 震度 2：海南市下津*、有田市初島町* 震度 1：和歌山市男野芝丁、和歌山市一番丁*、有田市箕島、湯浅町青木*、和歌山広川町広*					
2020年07月19日03時03分	和歌山県南方沖	33° 30.8' N	135° 04.9' E	25km	M3.4
和歌山県 震度 1：白浜町消防本部					
2020年07月22日07時12分	紀伊水道	34° 07.9' N	135° 02.5' E	10km	M2.3
和歌山県 震度 1：海南市下津*、有田市初島町*					
2020年07月26日13時56分	和歌山県北部	34° 02.8' N	135° 18.6' E	7km	M2.4
和歌山県 震度 1：湯浅町青木*					
2020年07月29日02時57分	和歌山県北部	34° 10.0' N	135° 11.6' E	4km	M1.7
和歌山県 震度 1：海南市下津*					
2020年07月29日03時00分	和歌山県北部	34° 09.9' N	135° 11.6' E	4km	M1.8
和歌山県 震度 1：海南市下津*					

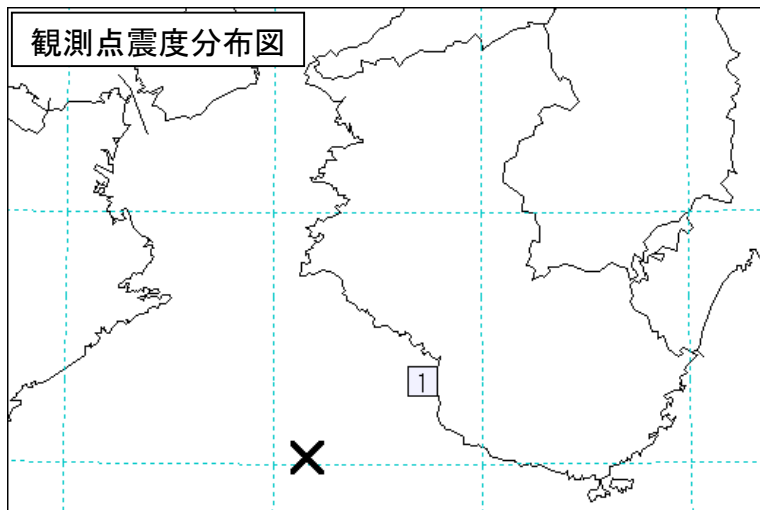
名の最後に*のついている地点は、和歌山県または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

震度分布図（図中の×は震央）

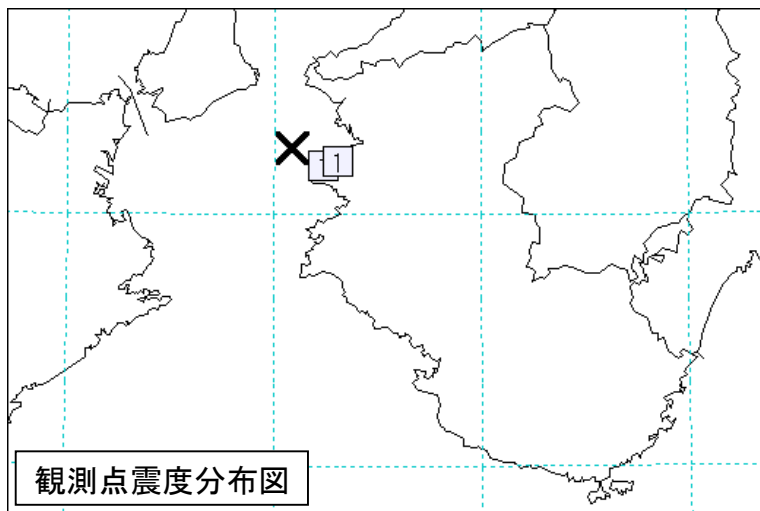
2020年07月06日03時33分 紀伊水道の地震(M3.2、深さ9km)



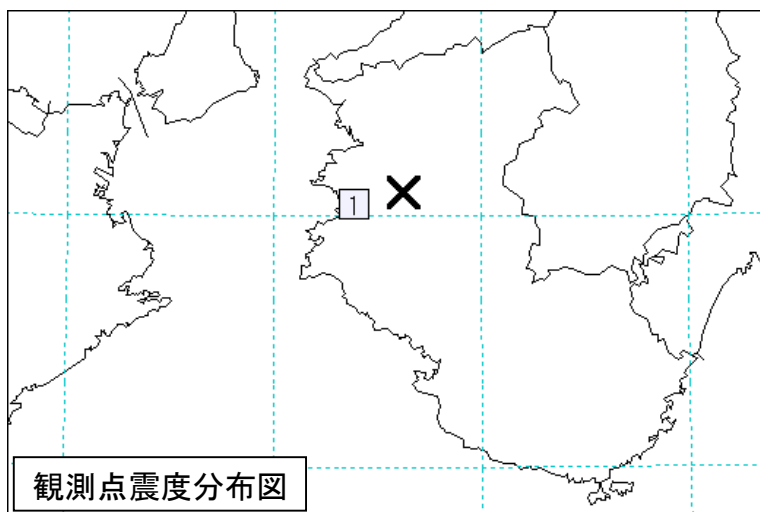
2020年07月19日03時03分 和歌山県南方沖の地震(M3.4、深さ25km)



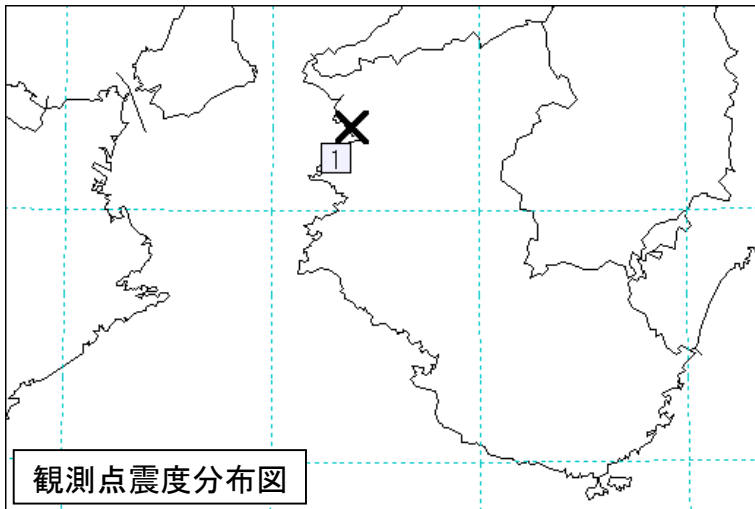
2020年07月22日07時12分 紀伊水道の地震(M2.3、深さ10km)



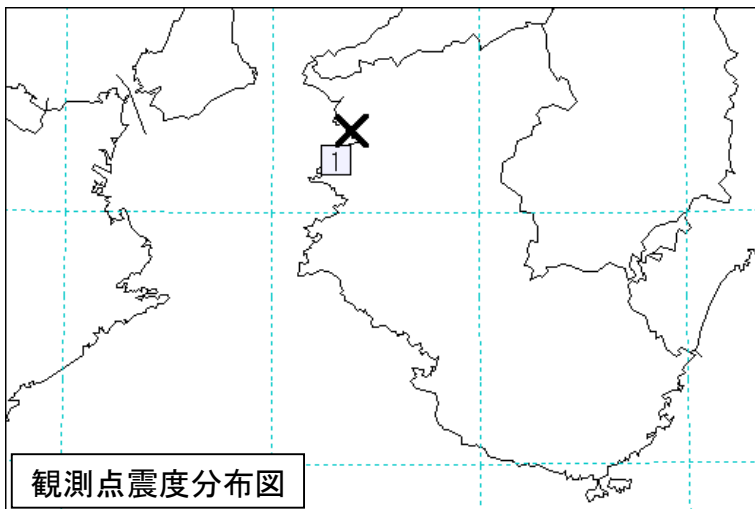
2020年07月26日13時56分 和歌山県北部の地震(M2.4、深さ7km)



2020年07月29日02時57分 和歌山県北部の地震(M1.7、深さ4km)



2020年07月29日03時00分 和歌山県北部の地震(M1.8、深さ4km)



南海トラフ地震関連解説情報 (令和2年8月7日)

南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていません。

1. 地震の観測状況

(顕著な地震活動に関する現象)

南海トラフ周辺では、特に目立った地震活動はありませんでした。

(ゆっくりすべりに関係する現象)

プレート境界付近を震源とする深部低周波地震(微動)のうち、主なものは以下のとおりです。

- (1) 東海から紀伊半島北部: 6月29日から7月14日
- (2) 四国東部から四国西部: 7月22日から継続中

2. 地殻変動の観測状況

(ゆっくりすべりに関係する現象)

上記(1)、(2)の深部低周波地震(微動)とほぼ同期して、周辺に設置されている複数のひずみ計でわずかな地殻変動を観測しました。周辺の傾斜データでも、わずかな変化が見られています。また、上記(1)の期間に同地域及びその周辺のGNSSのデータでも、わずかな地殻変動を観測しています。

GNSS観測によると、2019年春頃から四国中部でそれまでの傾向とは異なる地殻変動が観測されています。また、2019年中頃から志摩半島で観測されているそれまでの傾向とは異なるわずかな地殻変動は、最近では鈍化しているように見えます。

(長期的な地殻変動)

GNSS観測等によると、御前崎、潮岬及び室戸岬のそれぞれの周辺では長期的な沈降傾向が継続しています。

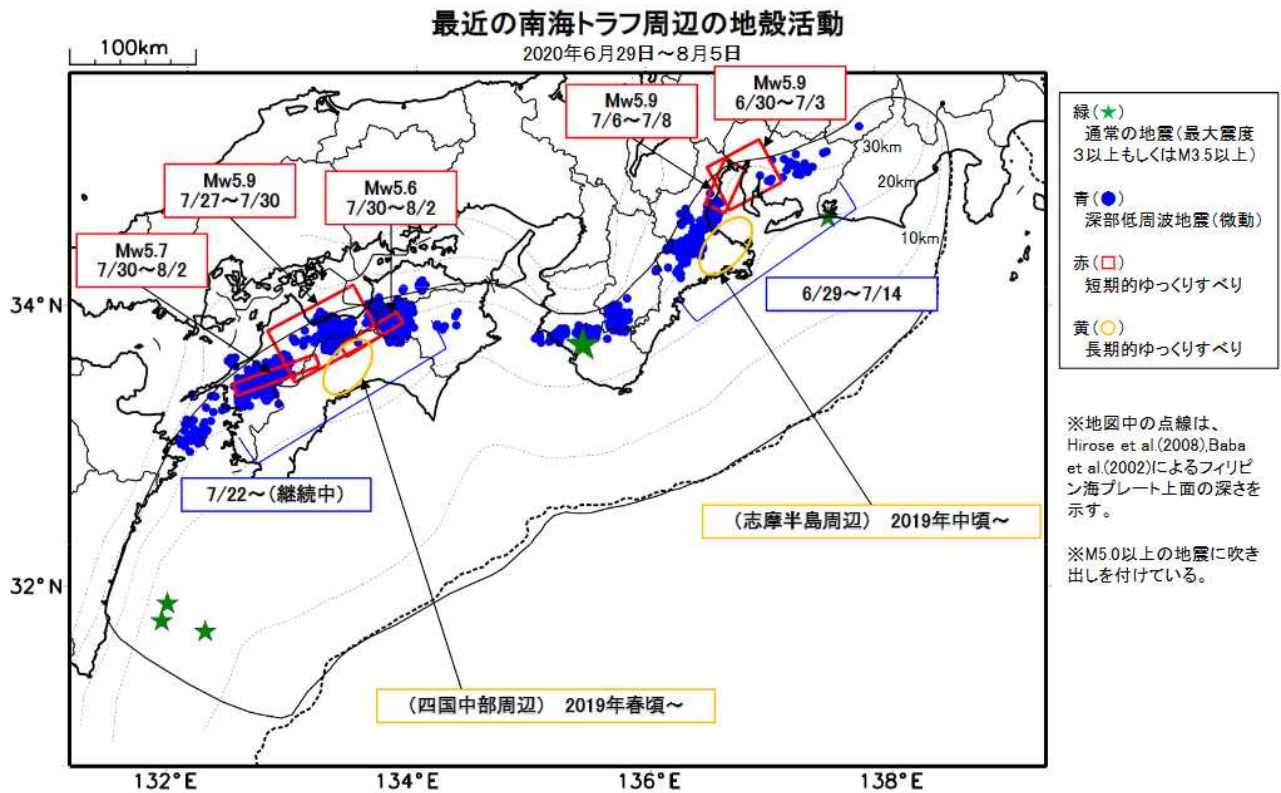


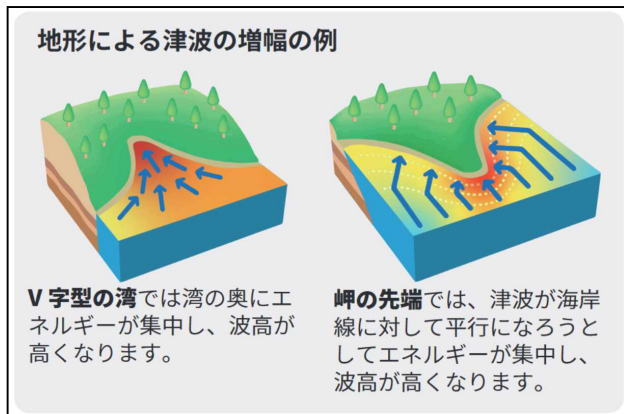
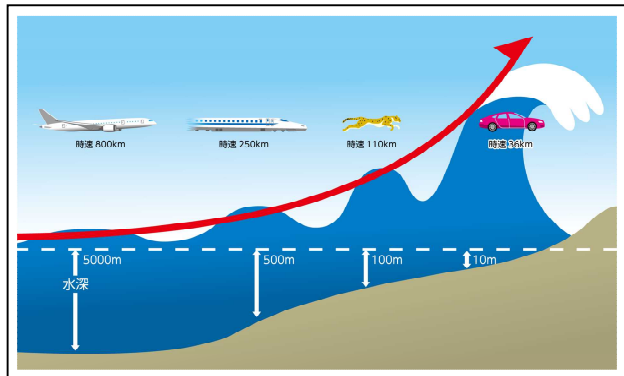
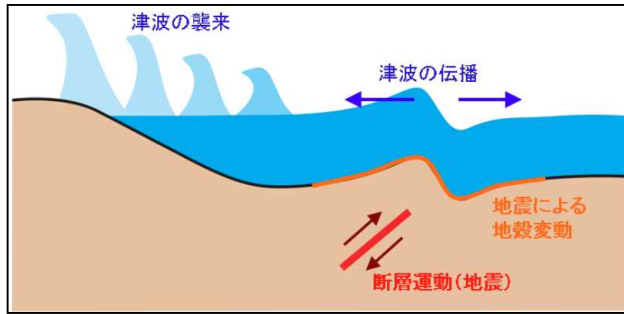
図 南海トラフ周辺の地殻活動をとまとめた図

この資料は、「南海トラフ地震関連情報」の普及を目的に、発表された『南海トラフ地震関連解説情報』の内容を抜粋、編集加工した概略を掲載しています。各観測状況の評価等、より詳細な事項は以下 URL の資料をご覧ください。

- ・ 南海トラフ地震関連解説情報 <https://www.data.jma.go.jp/svd/eew/data/nteq/index.html>
- ・ 報道発表資料 <https://www.jma.go.jp/jma/index.html> ※新着情報をご覧ください

津波から身を守る

◎津波を知っておこう



図の出典：気象庁HPより

●海底下で大きな地震が発生し、断層運動により海底が隆起もしくは沈降すると、海底から海面までの海水全体を動かして津波が起こり、四方八方に広がっていき、沿岸に押し寄せます。

●津波は、海が深いほど速く伝わる性質があり、沖合いではジェット機に匹敵する速さで伝わります。逆に、水深が浅くなるほど速度が遅くなりますが、津波が陸地に近づくにつれ、減速した波の前方部に後方部が追いつくことで、波高が高くなります。水深が浅いところで遅くなるといっても、人が走って逃げ切れるものではありません。また、30cm程度の津波であっても早い流れに人が巻き込まれてしまうおそれがあり大変危険です。

●津波の高さは海岸付近の地形によって大きく変化したり、津波が陸地を駆け上がる（遡上する）こともあります。岬の先端やV字型の湾の奥などの特殊な地形の場所では、波が集中するので、特に注意が必要です。津波は反射を繰り返すことで何回も押し寄せたり、複数の波が重なって著しく高い波となることもあります。このため、最初の波が一番大きいとは限らず、後で来襲する津波のほうが高くなることもあります。

◎津波に備えておこう

自宅、学校、職場周辺、旅行先など、津波に襲われるおそれのある場所や避難場所をハザードマップで確認しておきましょう。津波避難場所や津波避難ビルは、1か所だけでなく、さらに高い所も調べておきましょう。



津波が来襲する危険のある場所



津波避難場所 津波避難ビル

安全な避難場所

海岸付近で強い揺れ又は長くゆっくりとした揺れを感じたり、津波警報が発表されたら、実際に津波が見えなくても、より高い安全な場所へ速やかに避難してください。

津波は繰り返し襲ってきます。津波到達後も津波警報・注意報が解除されるまで気を緩めず、避難を続けてください。津波警報が出ている間は、絶対に戻ってはいけません。